

# 巨過2度目の火災から3週間 初期消火で注目される設備「スプリンクラー」

2022/08/31 (水) 10:00

大規模火災の発生から31日で3週間。

改めて見直されているのは初期消火の重要性。今回ふくサテではある設備に注目しました。

●障がい者グループホームつくしんぼ 事業副責任者 森圭弘さん：

こちらへどうぞ

案内されたのは共有スペースです。

障がい者グループホームつくしんぼ 事業副責任者 森圭弘さん：

スプリンクラーがこちらになります。こちらから火事があった場合は水が出て、消火をします

天井から水をまいて消火するスプリンクラー。自力での避難が困難な入所者がいる福祉施設では消防法によって設置が義務づけられています。

障がい者グループホームつくしんぼ 事業副責任者 森圭弘さん：

これだけなんですけど、下から水道管通って施設の天井に水が行きます

水道管とつながっている「水道直結型スプリンクラー」

大型の商業施設などに設置されているスプリンクラーと違い、専用の貯水タンクは必要ありません。1分間に使う水は15リットルで設置費用は1カ所当たり約50万円。住宅や小規模店舗では十分な消火能力があるとされています。

森さんは過去の経験からスプリンクラーの重要性を訴えます。

障がい者グループホームつくしんぼ 事業副責任者 森圭弘さん：

母体施設でボヤがあった時にスプリンクラーが早い段階で動いてくれたおかげで大きな火事にはつながらなかった

大きな安心につながる一方で、設置には「費用の壁」があるといいます。自治体はスプリンクラーの設置義務がある施設に対し補助金を設けていますが、自己負担も大きく経営が苦しい施設などでは設置が進んでいません。

障がい者グループホームつくしんぼ 事業副責任者 森圭弘さん：

スプリンクラーを設置した方がいいと思ってる人はたくさんいる。補助金などが拡充されるのであれば、設置するグループホームや商店街ができると思う

今回取材したスプリンクラーを開発・販売している、名古屋市の企業。巨過市場の4月の火災以降、より簡単に取り付けられる水道直結型スプリンクラーの開発に取り組んでいます。

前田バルブ工業 防災事業部 前田崇統さん：目の前に広がる火に対して、立ち向かって行くのは難しい。そういったときにこの設備を使うのはメリット（巨過市場のような）特別な場所については、特別な消防設備を行政がハード面としての支援をもっとしてもいいのかなと思う

悲劇を繰り返さないためにも設置が義務付けられていない飲食店などに対する補助も必要ではないかと感じています。

前田バルブ工業 防災事業部 前田崇統さん：

補助金でバックアップするから安心安全な暮らしを整えましょうという支援をしない限り、法令や実態は伴ってこない